

## 新たな成長期に 果敢に挑戦

### ITサイエンスパークの 街の完成を目指して

世界規模で生じている情報通信技術（IT）による社会構造の変革（IT革命）は産業、経済、文化等様々な側面において大きなインパクトを持ち、かつての産業革命に匹敵する歴史的な大転換を社会にもたらそうとしています。

IT国家戦略として世界最先端のIT国家を目指す「e-Japan戦略」が決定されました。この中で、超高速ネットワークインフラ整備に関して具体的目標が示され、2005年までに少なくとも3000万世帯に高速インターネットアクセス網に、1000万世帯に超高速インターネットアクセス網に常時接続が可能な環境整備により、電子商取引、電子政府、医療福祉等、国民生活に密着した分野のIT化が促進されることが大いに期待されます。

横須賀リサーチパーク（YRP）は1997年10月のオープンから4年になりますが、YRP研究開発協議

会では初動期3ヵ年研究活動推進、YRP推進協会は企業誘致・生活インフラ整備、（株）横須賀テレコムリサーチパークは進出研究機関に対するサポートを行ってきました。会員並びに関係機関各位のご理解とご協力により、きわめて活発な活動が行われ、YRPは国際的な移動体通信の研究開発拠点として、国内外に広く認知されるようになってきたところであります。

2002年度からは新たな3年間を「成長期」ととらえ、活動目標を設定するため、関係各位のご意見・ご要望を頂き、「成長期の戦略」を本年3月に策定する予定です。策定にあたってのキーワードとしては、「ITサイエンスパークとしての街の完成」、「研究機関の進出メリット追求」を目指し、協会・協議会の組織統合による最適な推進体制整備を行い、更なるYRPの発展を推進してまいります。引き続き絶大なるご支援とご協力をお願いいたします。



◆◆◆ 新年のご挨拶 ◆◆◆



総務省  
大臣官房技術総括審議官  
石原 秀昭

平成14年の新しい年を迎え、謹んで新春のご挨拶を申し上げます。皆様方には日頃より情報通信行政に多大なるご理解とご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

現在、世界規模で展開されている情報通信技術(I T)の飛躍的な発展は社会構造に大きな変革をもたらしているのは皆様ご承知のとおりです。

こうした変革の中で、我が国では、世界最先端のI T国家となることを目標に掲げた「e-Japan戦略」及び具体的な行動計画を定めた「e-Japan重点計画」等に基づき、重点的かつ戦略的にI T施策を推進しております。

総務省では、世界最先端のI T国家実現にむけて、新たな社会基盤となる超高速ネットワークインフラの整備とその利用の促進、競争的資金の積極的な活用や産学官連携による研究開発の推進を図るなど戦略的な研究開発を推進しております。その中でも最先端の高速無線インターネット環境やシー

ムレスな通信サービスを可能にする第4世代移動通信システムの実現を目指して、欧米やアジア諸国との連携とりながら国際標準化を進め、世界をリードする研究開発として推進してまいります。

横須賀リサーチパークは、産学官の密接な連携の下、最先端の次世代移動通信技術の研究開発を推進し、世界をリードする研究開発の拠点として、ますます活況を呈しておりますが、これもひとえに関係者の皆様方のご尽力のたまものと、深く敬意を表する次第です。今後も、産学官の連携、国際共同研究、研究交流等の活動において、先導的な役割を担い、優れた研究成果を創出されますことを期待致しております。

最後に、総務省として、高度情報通信ネットワーク社会の実現に向けてさらなる情報通信行政の推進に努めてまいりますので、皆様方の一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。新年の挨拶とさせていただきます。



横須賀市長

沢田 秀男

皆様、新年あけましておめでとうございます。

皆様には、お元気で新しい年を迎えられましたことと心から喜び申し上げます。

本年は、本市におきましては、さまざまな変革が求められる年となります。「行政」を「管理」から「経営」へと転換し、経営的発想に立って行財政体質の変革を成しとげながら、意欲的に取り組んでいきたいと考えています。

そのためには、横須賀らしい個性的な都市づくりをすることであります。

個性とは、「自分らしさ」とか「よそにないもの」をいいます。今日の都市間競争の中では、「よそ並み」という意味での「シビルミニマム」ではなく、「これだけはよそに負けない」という、「シビルマキシマム」を持

つ都市のみが評価されます。

「差異化戦略」に基づき、独創的で質の高い施策を生み出していくよう努力したいと思っております。

情報通信技術の世界的な研究開発の拠点であるYRPは、国際的にも高い評価を得ており、最近では、国外の有力なサイエンスパークといくつもの提携が進められておりますが、YRPの発展は、電子自治体として、さまざまな先駆的な実践を展開している本市の、一層のI T化の推進に重要な役割を果たしていると実感しております。

今年は「うま年」です。「天馬空を行く」という言葉のように、自由、大胆かつ柔軟に行動していきたいと存じます。

本年が皆様にとり輝かしい年となりますようにご活躍をお祈り申し上げて新年のあいさつと



京浜急行電鉄株式会社  
取締役社長

小谷 昌

新年明けましておめでとうございます。謹んで新春のお慶びを申し上げます。

明るい期待とともに21世紀がスタートし、はや1年が経ちましたが現在の国内外の諸情勢は、大変厳しい状況にあります。

このような中でも、本年5周年を迎えるYRPにおいては、移動通信技術の国際的な研究拠点として国内外から高い評価を受け、その活動はますます活発化しております。昨年、YRPで開発された第3世代移動通信システムのW - C D M A方式が世界に先駆けサービスを開始するなど、その成果を確実に重ねつつあり、これもひとえに、皆様方の研究活動に対する熱意の表れと深く敬意を表する次第であります。

今春、YRPには、NTTドコモR & Dオフィス棟、YRP

5番館(富士通YRP研究開発センター)が相次いでオープンし、また、秋にはNEC YRP技術センター(仮称)もオープンし、さらに多くの研究者をYRPに迎えることとなります。当社は、それに合わせ新たにレストランとホテルを開業いたしますが、今後とも、研究者の皆様がより快適な環境のもと研究開発が行われるよう、生活支援施設・交通アクセスの充実を図り、21世紀の研究開発拠点としてふさわしい街づくりを進めてまいります。

本年が皆様にとりましてより良い年となることを祈念するとともにYRPの益々の発展を願ひ、新年の挨拶とさせていただきます。

## ◆◆◆ 新年のご挨拶 ◆◆◆

新しい年の初めにあたりご挨拶申し上げます。

新世紀の幕開けの昨年は激動の一年でありましたが、世界規模で生じている情報通信技術（IT）の進展は産業・経済・文化のあらゆる面に大きく影響を及ぼしております。ボーダレス化、グローバル化がIT技術の進展に更に拍車をかけ、今後のブロードバンド通信インフラが広く普及することで、産業構造変革や社会経済発展の新たな原動力となっているように見られます。

YRPにおける昨年を振り返ってみますと「国際交流」として、デンマークのNOVIに始まり、フランス、フィンランドのサイエンスパークとの業務提携や、中国北京郵電大学、タイ国科学技術庁との連携推進の覚書を締結し活発な活動を行ったことは特筆すべきです。また、「産学官交流」ではYRPで誕生した国際学会

WPMC (Wireless Personal Multimedia Communications) は第4回をデンマーク国において盛大に行われました。産学官交流シンポジウムを始め、産と学の交流ツールとしてアカデミア交流ネットワーク事業もキックオフするなど活発な活動を展開しました。「研究開発」においてもYRPで開発されたIMT-2000は世界に先駆け商用化され、次世代の研究開発も推進され常に世界をリードする研究開発拠点として活動しております。

YRPの活動は産学官連携・研究交流促進により、電波・情報通信技術の研究開発を推進するものであり、国際的な連携が益々重要になってきていると思います。

IT革命の新たな課題に皆様とともに挑戦し、YRP発展に尽くすつもりです。

よろしく願いを申し上げます次第であります。



横須賀リサーチパーク  
研究開発協議会会長  
国立情報学研究所教授

羽鳥 光俊

新年明けましておめでとうございます。2002年の年頭にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

昨年は、ITバブルの崩壊や、ハイテク関連の製造業を中心とした景気の衰退が始まり世界的に厳しい市況に陥り厳しい年となりました。

しかしながら、YRPにおける活動はますます活性化し、横須賀リサーチパーク推進協会に於いては、昨年、ノヴィ・サイエンスパーク（デンマーク）をはじめ5ヶ国、6団体と連携推進に関する覚書（MOU）の調印を行い世界諸国との国際交流を深めております。また、日中間で相互の組織・人的交流の促進、共同研究・電波情報通信技術に関するセミナー・情報交換等を民間ベースで行うことを目的と

した「日・中移動体通信技術フォーラム」を昨年の12月に設立し、本年1月末には訪問団を派遣するなど日・中間交流を積極的に行っております。

今春、YRPにおいてはNTTドコモYRPオフィス棟・YRP5番館（富士通）のオープン、また、秋にはNEC YRP技術センターのオープンと研究施設も充実してまいります。推進協会は研究開発協議会与3月に統合し相互の利点を生かしYRPの推進に取り組んでまいります。

最後に、YRPのますますの発展を願うとともに、YRP関係者の皆様にとって実りのある年であることを祈念し、年頭のご挨拶とさせていただきます。



横須賀リサーチパーク  
推進協会会長

麩 昭男

New Year's Greetings





## 横須賀市の姉妹都市であるフランス・プレスト市の「テクノポール・プレスト・イロワーズ」とMOU締結

平成13年11月5日、YRPは、フランス・プレスト市に所在するサイエンスパーク「テクノポール・プレスト・イロワーズ」のラベイ会長を日本に迎え、MOUに調印した。プレスト市はフランス海軍の拠点・港湾産業都市であることから、似たような環境を持つ横須賀市と既に姉妹都市を提携しており、YRPとテクノポール・プレスト・イ

ロワーズの交流もこの友好関係を端緒として始まった。

テクノポール・プレスト・イロワーズに集積する企業・研究機関は欧州における通信システム技術の標準化に多大に寄与しており、これらの研究機関との連携を強めていくのはYRPにとって有意義であり、今回のMOU調印に至ったもの。

YRPのMOU締結  
及び本年度中に締結予定の  
サイエンスパーク

(平成13年12月末現在)

デンマーク  
ノヴィ・サイエンスパーク

フランス テクノポール・プレスト・イロワーズ

フランス ソフィアアンティボリス  
サイエンスパーク

## ノヴィ・サイエンスパークにつづき 新たにフィンランド・オウル市の「テクノポリス」とMOU締結

平成13年12月18日、デンマーク(ノヴィ・サイエンスパーク)、フィンランド(テクノポリス)、日本(YRP)をTV会議にて結び、3者間連携推進に関する覚書の調印(MOU)を行った。調印式には、デンマークからノヴィ(株)イエスパーセン理事、オル

ポー大学プラサド教授、フィンランドからテクノポリス(株)ネノネン会長、同 フースコネン最高経営責任者、同 ラウノネン地域専門家センター局長、オウル大学ラユネン学長らが出席。

YRPからはYRP研究開発協議会の羽鳥光俊会長、YRP

推進協会の鶴昭男会長、(株)横須賀テレコムリサーチパークの沢田秀男社長(横須賀市市長)が、それぞれYRPの推進機関の代表として署名を行い、連携協力について3者意欲を述べ、調印式を終了した。

今後は、それぞれのサイエンスパークとの情報交換や研究交流を図り共同研究などを進め、電波・情報通信技術の研究促進に寄与する。



テレビ会議を使って行われた調印式

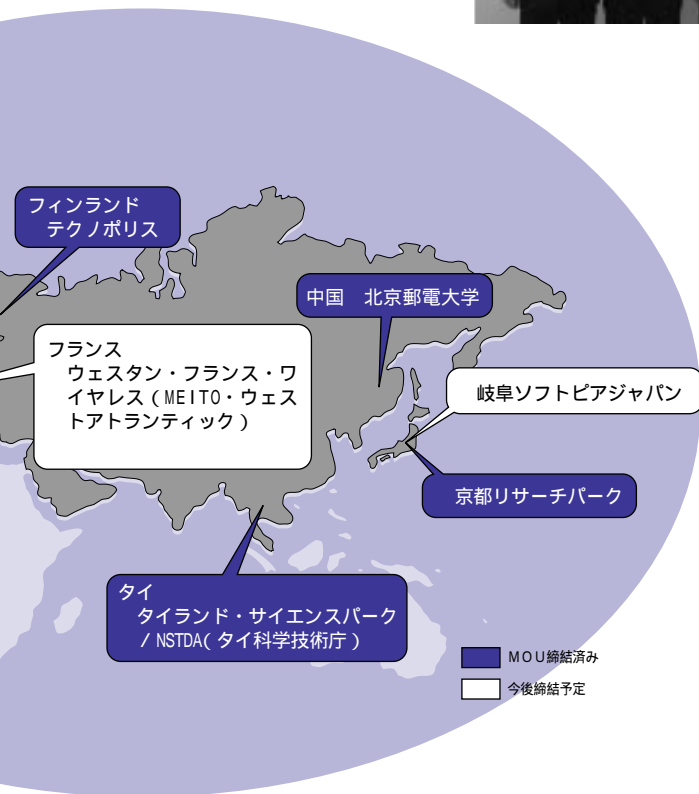




## ETSI本部のあるサイエンスパーク 「ソフィアアンティポリスサイエンスパーク」 とのMOU締結

平成13年11月29日、YRPは、フランスのニース市に所在するサイエンスパーク「ソフィアアンティポリスサイエンスパーク」とMOUを締結した。同サイエンスパークは、欧州の標準化活動の中心機関、ETSI（欧州電気通信標準化機構）本部の誘致にも成功している。また後継エンジニアの育成のため、世界各地のIT関連企業でのインターンシップを実施しており、高等教育機関では5000名近い学生が企業ニーズに合わせた教育を受けている。YRP研究開発協議

会でも会員企業に学生の受入れを照会するなど、既に協力体制はある。YRPにとってソフィアアンティポリスサイエンスパークは、海外4箇所目のMOU調印先となり今後、情報交換・研究交流等を必要に応じて相互協力していく考えである。



## 「アジア太平洋地域との連携強化」実現に向け タイ国家科学技術庁(NSTDA)とMOU締結

YRPが、重要課題としている「アジア太平洋との連携強化」を実現するにあたっての大きな第一歩となるタイ国家科学技術庁(NSTDA)とのMOUを締結を平成13年11月12日行った。

調印式にはタイ国家科学技術庁(NSTDA)からパイラート長官が出席され、NSTDAを代表としてMOUに署名をされました。またYRPからは、横須賀リサーチパーク研究開発協議会 羽鳥光俊会長、横須賀リサーチパーク推進協会 轟昭男会長、(株)横須賀テレコムリサーチパーク 澤田秀男代表取締役

社長らが、YRP推進機関の代表として署名を行った。今回MOU締結先のNSTDAは、タイの科学技術環境省の傘下にある機関で、国際競争力強化、先端的な科学技術の研究開発、更にその成果の民間への技術移転を主な任務としている。その他にも産学官連携ハイテク基地構想に基づいたタイランド・サイエンスパーク(TSP)の運営も手がけており、国内外の民間企業のR&D部門を誘致したタイの代表的なハイテク基地を育てようとしている。



## ● YRPが新たにユビキタスネットワークの 壮大な研究開発に乗り出した

日本におけるモバイルの通信技術開発のメッカとなっているYRPの中核となって共同研究事業を支援してきた㈱横須賀テレコムリサーチパークは、初めて自社での研究開発事業を立ち上げた。トロン開発で有名な東大の坂村健教授を中心として、NTTデータ、KDDI及び東芝、日立、三菱、富士通、日電というモバイルに実績のあるエレクトロニクスメーカーの結集を得て、新たに「ユビキタスネットワーク研究所」を設け、通信・放送機構からの研究受託により平成14年1月より5カ年の計画。

これまで各方面でユビキタス環境のネットワークングの研究がなされてきたが、これまで以上にセキュアでエフォートレスな環境を作り出す事を目指すことが大いに期待されている。

### 《ユビキタスネットワーク社会の概念》

時間や場所の制約を超えて  
 情報を活用できる社会の実現

さまざまな場所に埋め込まれたコンピュータを、あらゆる人があまり意識しないで利用する



## ベンチャー棟「横須賀市産学官交流センター」内に 「慶應義塾大学理工学部・ 次世代移動体通信研究プロジェクト」がオープン



平成13年10月29日YRPベンチャー棟内に慶應義塾大学理工学部とNTTドコモとの共同研究分室として開所式を行い、本年度より本格的に始動が開始されている。

開所式では、慶應大学、中川正雄教授よりプロジェクト概要の紹介が行われ、研究プロジェクトの位置付けを2010年サービス開始予定とされている「第4世代移動体通信システムの実現に向けた研究」とし、10Mbps～100Mbpsという光ファイバー並みの高速・大容量通信や、高速移動時における高品質通信の実現を目指すもの。

尚、「横須賀市産学官交流センター」は、市が推進する「大学院大学構想」の一環として位置付け、産学官交流の場として活用を進める。



YRPベンチャー棟

## 「EMC講演会」開催される

平成13年12月21日、YRP1番館・YRPホールにて、横須賀リサーチパーク研究開発協議会と独立行政法人通信総合研究所が主催し、「移動体通信に関するEMCの動向」をテーマとし4人の講師を迎え講演を行い、移動体通信関連企業から多くの参加者を集めた。

講演講師には、東北大学電気通信研究所教授 杉浦行氏「EMCに関する最近の話題と研究動向」、総務省総合通信基盤局電波部電波環境課長補佐 矢島潔氏「EMCに関する総務省の取り組み」、株式会社NTTドコモ電波環境特別研究室長兼

ワイヤレス研究所無線回路研究室長 野島俊雄氏「移動体のEMCと電波産業界等における取り組みについて」、独立行政法人通信総合研究所 横須賀無線研究開発センター電磁環境グループリーダー 山中幸男氏「CRLにおけるEMC環境における概要」をテーマにそれぞれ発表が行われた。講演後、熱心な質疑応答がなされEMCに対する関心の高さが伺われた。今後も定期的に同講演会を開催予定である。

(講演内容等を知りたい方は事務局までお問い合わせください。)



## 研究活動を終えて

### 株式会社ワイ・アール・ピー移動通信基盤技術研究所 専務取締役 石川 嘉彦

弊社は第4世代陸上移動通信システム(2010年頃の実用化を想定)に関する基盤技術の研究開発を1995年から行い(本ニュース第7号参照) 昨年末で研究活動を終えた。第一研究室(11名)では無線伝送技術に関する研究を、第二研究室(12名)ではネットワーク構成技術及び電波伝搬特性に関する研究を進め、国内学会並びに国際会議で約500件の成果発表を行った(論文発表を含む)。また、国内及び海外を

合わせて200件近い特許を出願し、既に100件以上が登録になっている。出資会社(18社)に対しては研究成果報告会を行ってきたが(2回/年) 昨秋は出資会社以外にも案内状を発送して研究発表会を開催した(11月15日; YRPホール)。午前は招待講演「新世代ワイヤレスの課題と方向性」(中嶋信生教授) 研究所全体及び研究室単位の研究概要を、午後は5つの研究グループから7つの研究テーマを選んで発表した。

当日は大学の先生方(15名)を含めて100名以上の参加者があり、数多くの質問を頂いた。また、昼休みと午後の休憩時間に4つの研究に関するパネル展示及びデモ公開を行った。

弊社は、YRP構想の一つである「産学官の連携による共同研究の実施」を具体化する役割を担って設立された。弊社の研究成果が大学や出資会社に今後承継され、第4世代システムの実現に役立つことを願っている。



### 株式会社YRP高機能移動体通信研究所 専務取締役 山本 稔

当社は、平成10年1月、業務用移動体通信システムの高効率伝送及び機能の高度化・多様化技術に関する研究開発を目的に設立されました。業務用移動体通信には、その性格から経済性、高い信頼性が求められます。さらに、業務のIT化により、画像やデータ通信が可能な高度な機能が必要になり、これらを限られた周波数帯域の中で実現する

必要があります。

これらの課題を克服するために12人の研究者が、一丸となって研究を進め、次世代業務用移動体通信の基盤技術を確立することができました。昨年12月7日に、成果報告会を開催し、12月末に研究を終了しました。報告会は、講演と成果の展示・デモンストレーションを並行して行い、参列者から、優れた成果であり、分かり易

い発表であったと好評でした。

目覚ましい発展を続けるYRPで各種の講演会や交流会等で刺激を受けながら最高の環境で研究を進めることができました。当社の研究成果が実用化という形で社会へ還元される日が来ることを念じて、お世話になった皆様に感謝の意を表します。



## 研究開発棟

### NTT DoCoMo R&D オフィス棟

開所予定：2002年 春（予定）

延床面積：地上7階、地下1階、駐車場、延べ床面積約54,000

今回のオフィス棟建設により、YRPが目指す「産・官・学」一体となった研究開発拠点として、移動体通信の基盤研究、第三世代移動体通信システム「IMT-2000」方式の研究及び第4世代以降の移動体通信システムに向けた新技術の開発を行い、研究開発体制を強化。従業員約800名程度（オープン時、既存棟との合計人数）



### YRP5番館 富士通株式会社 YRP研究開発センター

開所予定：2002年 4月

延床面積：地上10階、延べ床面積約20,300

富士通は従来YRPで推進してきた「IMT-2000」「第4世代移動通信システム/端末」の研究開発を高度化、スピード化するために1000名以上の研究、技術者を5番館に集結。



### NEC YRP 技術センター（仮称）

開所予定 2002年 10月（予定）

延床面積 地上6階、延べ床面積約6,870

開設後の集約人数は、約330人を予定しており移動体通信分野の研究開発拠点とし、第四世代以降をも視野に入れた先端ソフトの研究開発の一層の効率化を目指す。



## 今春より 3つの新研究開発棟が竣工予定。 ホテル・レストランも オープンに向け建設順調

昨年より建設が進められていた、3つの研究開発棟が3月より次々と竣工する。またそれに伴うYRP域内のレストラン・コンビニエンスストア・サポートセンターが近々にオープン予定である。

### レストラン

#### YRP第2ローズテリア（仮称）

開業予定 2002年 3月開業予定

延床面積 地上1階、延べ床面積約13,500

YRP第2ローズテリア（仮称）ではカフェレストランの他、コンビニエンスストア、サポートセンターを備えている。



### ホテル

#### YRP宿泊施設

開業予定 2002年 9月開業予定

延床面積 地上6階、延べ床面積約17,500

ホテルには3タイプの客室（シングル・ダブル・福祉タイプ）の計67室を完備。



## YRP イベント 報告

### YRPクリスマス会2001

2001年12月14日（金）にYRPセンター1号館にて、「YRPクリスマス会」が開催され、昨年に引き続き600人を超える参加者が、普段とは違う雰囲気の中で一早くクリスマスムードを楽しみました。



ライブ演奏やフラダンス  
が会場を盛り上げました。

### YRP「駅伝大会2001」結果報告

2001年11月17日（土）YRP秋の恒例行事となる「YRP駅伝大会2001」が開催。1チーム4名で襷をつなぎ争われ、松下通信工業のジョグザウルスAAAチームが優勝という結果になりました。



中継地点の一コマ

【編集・発行】 横須賀リサーチパーク推進協会  
〒239-0847 横須賀市光の丘8-3 TEL: 0468-40-4100 FAX: 0468-40-4101  
横須賀リサーチパーク研究開発協議会  
〒239-0847 横須賀市光の丘3-4 TEL: 0468-47-5008 FAX: 0468-47-5010  
(株)横須賀テレコムリサーチパーク  
〒239-0847 横須賀市光の丘3-4 TEL: 0468-47-5000 FAX: 0468-47-5010

<http://www.yrp.co.jp>